お茶の水女子大学附属高等学校

「自他の健康に根ざすがん教育」

保健体育科　佐藤 健太

１．実践報告

（１）授業概要

１、日時　　令和３年 10 月 27 日（水）、11 月 10 日（水）両日とも８：10～８：55

２、対象　　お茶の水女子大学附属高等学校　第１学年 蘭・菊・梅組　女子 120 名

３、場所　　１年各組ホームルーム教室

４、単元名　「がん」（2 時間扱い）

５、単元のねらい

・がんについて、その発生のしくみや原因、内容及び我が国のがんの現状と課題、がんの治療法やがん患者の理解と支援について幅広く理解する。【知識・技能】

・他者との情報交換や情報共有を通じて、自身ががんとどのように向き合い、かかわっていくかを考え発表し、具体的な行動や態度に移そうとする。【思考力・判断力・表現力】

・がんについて興味関心をもち、自ら主体的に情報を収集したり、自身の生活にどのように活用するか考えたりすることで将来に向けたヘルスリテラシーの素地を養う。【主体的に学習に取り組む態度】

６、用具　教科書、図説、Ｑ＆Ａシリーズ生活習慣病成人期（副読本）、ワークシート、iPad20 台、ＰＣ、プロジェクタ、パワーポイント

７、本時案

段階	所用時間	学習項目	学習内容	指導上の留意点	評価
導入	３分	集合・挨拶 欠席確認 プリント配布	○生徒の号令で行う。	・静かにさせてから行う。 ・名表を回し、出席を確認する。 ・ワークシートを配布する。	
	５分	本時の学習内容の確認	○がんについて理解し、何ができるか考える。 ・発問：「がんについてどんなイメージをもっていますか？」 －予想される記入例－ ・恐ろしい　・がんになったら治らない ・死ぬリスクが高い	・ワークシートにがんに対するイメージを書かせる。 ・生徒の中には、ネガティブなイメージが先行し、誤った理解をしている生徒もいることが予想される。	
	２分	がんを学ぶ前の注意事項	○がんは特別な病気でなく、身近な病気である前提で学習することを意識する。 ○万が一、授業中につらくなったり、悲しくなったりした場合は退出してもよい。	・がんを学習する前に、身近にがんと闘病中の人やがんで亡くなった人がいることを踏まえ、気持ちが苦しくなった場合は遠慮なく退出してよいことを伝える。	

	35 分	がんの理解	○パワーポイントを参照しながら、がんについて学習し、ワークシートに記入する。 ・がんのしくみ ・がんの原因 ・日本におけるがんの罹患数・死亡者数 ・がんの発生する部位と進行過程 ・がんにならないための予防、対策 ・がん検診の重要性 ・がんの治療法 ・治療を決める上で大切なこと ・がん治療に必要な支援 ・がん患者の要望と患者との接し方	・パワーポイントに沿って解説を行う。 適宜、生徒を指名し、答えや意見を拾いながら進める。必要事項はワークシートにメモをとらせる。 ・１学期の生活習慣病の学習と関連づけながら説明する。	【知・技】
			ここまで前半部分		
展開	25 分	がんについての意見交換と情報収集	○がんについての解説を聞いて、ペアでディスカッションする。 ・自分だったらがんとどのように関わるか、がんを取り巻く現状や問題点、今後への期待等についてより知りたいこと、理解しづらかったこと等についても相談してよい。	・隣の生徒とペアまたは３人組を作り、話し合わせ、ワークシートにメモをとらせる。	【思・判・表】
			○話し合いをもとに、テーマを決めてがんについての情報収集を行う。 ・ペアで iPad を利用し、設定したテーマについての情報を協力して収集する。 ・収集した情報をワークシートに記録する。	・iPad をペアに１台配布する。 ・生徒がテーマ決めに悩むようであれば、いくつか例示する。 ・生徒が iPad を活用し、効率的に情報収集できるよう巡回する。	【態】
	12 分	情報交換・情報共有	○他グループと情報交換・情報共有を行う。 ・合併室に再集合し、自分たちのグループの情報を他グループに伝えたり、他グループのテーマや調査内容について聞いたりして情報の交換・共有を行う。 ○調査テーマや収集・共有した情報を発表する。	・収集した情報について、ワークシートに記録させる。 ・近場のグループと情報の交換・共有を促し、ワークシートに記録させる。 ・いくつかのグループを指名し、調査内容を発表させ全体で共有させる。	【態】
まとめ	8 分	まとめ 挨拶	○情報収集を通して、今後どのように自分の生活に活用するかワークシートに記入する。 ○本時の振り返りと感想を記入する。 ○生徒の号令で行う。	・授業の前後でがんに対する認識がどのように変化したか書かせる。 ・時間があれば発表させる。 ・ワークシートを回収する。	【思・判・表】

８、評価

・がんについて、その発生のしくみや原因、内容及び我が国のがんの現状と課題、がんの治療法やがん患者の理解と支援について幅広く理解している。【知識・技能】

・他者との情報交換や情報共有を通じて、自身ががんとどのように向き合い、かかわっていくかを考え発表し、具体的な行動や態度に移そうとしている。【思考力・判断力・表現力】
・がんについて興味関心をもち、自ら主体的に情報を収集したり、自身の生活にどのように活用するか考えたりすることで将来に向けたヘルスリテラシーの素地を養おうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

（２）授業場面１：講義形式によるがんに関する知識理解の学習（45 分）

教科書・図説をはじめ授業者が執筆協力したお茶の水女子大学ヒューマンライフイノベーション開発研究機構発行の副読本「Ｑ＆Ａシリーズ生活習慣病成人期」及び文部科学省が作成したがん教育の授業スライド（高校生版）を一部改訂し、それらを使用して授業を実践した。授業者作成のオリジナルの学習プリントにより、わかったことや考えたことを記述する方式により、授業を進行した。

・学習プリントの記述より、スライドを用いて行われた前半の 45 分の授業内容のうち、がんの知識に関する学習内容を正しく理解している様子が見受けられた。

・学習プリントの記述より、授業者の発問を理解し、個人の考えや隣の人と話して考えたことが記載されていた。

（３）授業場面２：ペア（2～3 名）による選択テーマの調べ学習（約 25 分）

生徒が選択したテーマは以下の通り、多岐にわたった。

・がんに関連する団体
・がん保険制度
・がんに対する日本と海外の違い
・がんの治療法、費用、公的支援
・がんの予防法、生活習慣の改善
・がんに対する理解、がんに対する意識
・がんの早期発見、がんの死亡率、5 年生存率
・がん治療の問題点、抗がん剤（副作用）
・検診制度、検診のコスト、文京区のがん検診
・がんに関する情報発信
・膵臓がん、大腸がん、子宮頸がん、小児がん
・高校生とがん、末期がん、動物のがん
・マンマチェック
・健康食品は効果があるのか
・インフォームドコンセント
・受診率が低い理由、受診を促すためには、受診率を上げるためには
・がん患者との接し方、心のケア、末期がん患者との付き合い方
・多くの人が検診や最新治療が受けられる制度の確立
・がん患者が働きやすい会社等の環境、がん患者の離職、ながらワーカー

調べ学習の様子

（４）授業場面３：調べた内容をグループ代表者が発表（約 12 分）、本時の授業のまとめ（学んだ事、考えた事の記述）

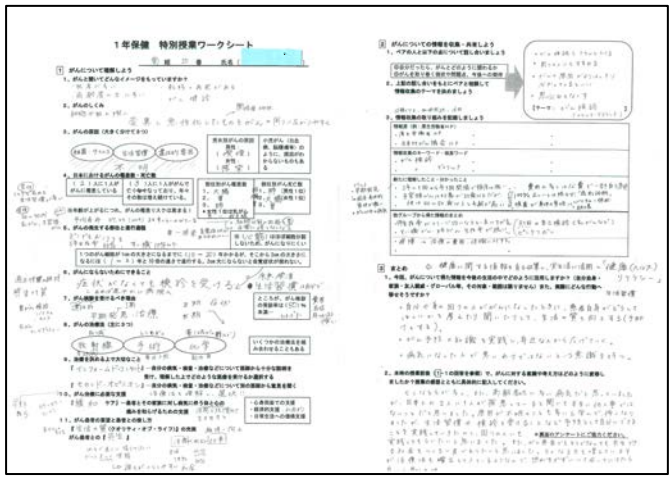
〇〇な事がわかったというだけでなく、以下のことが述べられていたり、学習プリントに記述されたりしていた。

・検診の大切さ
・検診を広めるためには
・医療の進歩と治療法の選択
・多くの情報から正しい情報を選択する必要性
・家族へ伝える等、情報の発信

Ｑ＆Ａシリーズ副読本

（５）授業評価１：がんに対する意識や考えの変容
「授業前後で、がんに対する意識や考え方がどのように変わりましたか」（自由記述）
「新しい知識を学んだり、調べたりすることにより考え方が変わった」71.8%
どのような点が変わったか

１位「早期発見（検診の必要性）」44.7%
２位「がんは身近な病気」25.4%
３位「がんはこわい病気ではない」24.6%
*自由記述のため、がん教育モデル校との比較はできない。



がん授業ワークシート

（６）授業評価２：がんに対する行動への意識
「がんについて得た情報を今後の生活の中でどのように活用しますか。また実際にどんな行動に移せそうですか。」

１位「早期発見（検診の必要性）」64.0%
２位「家族や友達とのコミュニケーション」57.0%
３位「生活習慣の改善」31.6%

２．考察・検証

（１）授業場面１

授業スライドを用い、適切でわかりやすい説明と解説を心がけた。授業者の授業準備や教材研究の必要性、教師のがんに対する知識・理解度や教材研究への意欲により、がん授業の内容が左右される可能性を示唆している。

授業者の作成した学習プリントや発問により、単なる知識・理解ではなく、個人や隣同士の数人で、考える場面を取り入れ、がんに対する関心を高めたり、データからわかることを読み取ったりする力を育む工夫を施した。また、Q&A シリーズの副読本を活用し、教科書や図説にない情報や資料を加えたり、補足したりすることで様々な切り口からがんについて考える機会を設けた。

（２）授業場面２

各グループで様々な選択テーマを挙げている点は、生徒が一斉授業の知識・理解の中で、がんに

対する疑問点や課題を思考しながら受講していた様子が示唆された。例えば、検診の必要性と受診率の低さを知識として習得し、その原因と受診率を高めるためにはどうしたら良いのか考えながら授業を聞いている様子がうかがえた。また、その課題に対して適切な情報収集と情報の選択を行っていた。

（３）授業場面３

学習プリントから「自分のグループが調べた以外のこともわかって良かった。」「今日学んだ事を家族や友達に伝えたい。」と評価している記述が複数見られた。このことは、がんに関して自身が興味を持ったテーマについて調べることにより、情報収集と情報選択の学習ができ、他グループの発表から多角的な視点でがんについて考えるきっかけになったものといえよう。

（４）授業評価１と授業評価２の結果より

がんに対する意識や考えの変容と行動への意識の両方で、「早期発見（検診の必要性）」が１位であったことから、検診を受けるための動機づけが高まっている可能性が示唆された。また、行動への意識の２位「家族や友達とのコミュニケーション」も半数以上の生徒が挙げており、この点について、がんに関する問題は自分だけでなく家族や友達と共有すべきものであり、他者の健康に対する意識が本授業によって変容したことがわかった。新学習指導要領では、「自他の健康」という見方を重視しており、がん教育はその可能性を持った題材であることが再確認できた。

（５）アンケート結果より

授業前後にがんに関する意識調査を実施した。120 名中 114 名より回収し、回答率は 95%だった。

・がんは身近な病気である……	「そう思う」	授業前 68% → 授業後 98%
・がんはこわい病気である……	「そう思う」	授業前 95% → 授業後 84%
・がんは治らない病気である……	「そう思わない」	授業前 61% → 授業後 83%
・よりがんについて知りたい……	「そう思う」	授業前 71% → 授業後 87%
・がん検診を受けようと思う……	「そう思う」	授業前 58% → 授業後 91%
・いのちの大切さを考える……	「そう思う」	授業前 75% → 授業後 86%
・がん患者への理解が深まる……	「そう思う」	授業前 68% → 授業後 98%
・がん患者への差別偏見をなくす……	「そう思う」	授業前 82% → 授業後 96%
・家族や身近な人とがんを話し合う…	「そう思う」	授業前 35% → 授業後 79%

*小数第一を四捨五入

授業を通じて、ほとんどの生徒ががんを「身近な病気」として捉えられた一方で、がんへの「恐怖心」は授業後も多くの生徒が抱いていることがわかった。加えて、「がんは治らない」という先入観をもっていた生徒が２割以上減っているものの、より一層がんに対して正しく恐れる姿勢を定着していく必要がある。また、大半の生徒ががんについて「さらに知りたい」と答えており、約９割（授業前は 6 割弱）の生徒が「がん検診を受けよう」と大きな意識の変容がうかがえた。さらに、「いのちの大切さ」や「がん患者への理解」など、自分だけでなく他者への健康にも目を向けられるようになった生徒が増加した。それにともない、約８割（授業前は 35%）の生徒が家族や身近な人と「がんについて話し合おう」という意識の醸成が確認できた。

以上より、本授業をきっかけにがんについて知り、自他の健康増進に寄与しようとする意識や態度が概ね育まれたといえよう。

（６）がんへの理解度

本授業を行った学期の期末考査において、がんの知識ならびに思考力・判断力を問うた。まず知識を問う問題では、がんの説明として以下の用語を穴埋め形式で回答させた。正答率は以下の通り。

・悪性新生物	77%
・細胞	98%
・増殖	76%
・転移	95%

次に、現在（2018 年データ）において、男女別のがんの罹患原因として最も多いものを選択問題（6 つの選択肢から各 1 択）で出題した。正答率は以下の通り。

・男性…喫煙	89%
・女性…感染	81%

続いて、がんの治療法を決める際の留意点について「インフォームド・コンセント」と「セカンド・オピニオン」の 2 つのワードの意味を簡潔に説明する記述問題を出した、正答率は 89%だった。

さらに、がん患者やその家族に対する心身両面や社会的な痛みを和らげるための支援＝「緩和ケア」について語句を問うたところ、正答率は 79%だった。語句は理解しているものの、誤答として「緩」の漢字ミスが散見された。

最後に、日本のがん検診の受診率グラフ（男女とも検診率 50%弱）を示し、この現状を受けてヘルスプロモーションの観点から自分ならどのような健康づくり・健康行動を実践するか 150 字以内でまとめる思考力・判断力・表現力をはかる論述問題を出題した。本問については、ヘルスプロモーションの概念に沿って、がんの予防行動についての自分なりの考えや具体策、他者の健康への言及等が書かれていれば正答とした。正答率は 99%だった。そのうち、模範的な解答を以下に紹介するが、掲載した以外にも良質なコメントが多くみられ、生徒自身で深く考え、今後に活かそうとする意識の醸成が垣間見られた。

> データから女性の受診率がどれも 50%未満なので、がんの早期発見のためにも定期的にがん検診を受診したい。また、肺がんなどは喫煙が主な原因だと思うので、がん以外の病気にかからないためにも、喫煙・飲酒・食習慣などの生活習慣に気をつけて、規則正しい健康な日々を送っていきたい。また、家族などの健康にも留意したい。

> 日々の生活習慣に気を配り、規則正しい生活を送ることはもちろんだが、遺伝的要因などでがんになってしまう可能性も大いにあるので、検診の知らせが来たら必ず受診する。万が一、がんと診断されても、自覚症状がない状態ならステージも低く完治できると思うので、悲観的にならず医者の話を聞いてがんと向き合いたい。

> がん検診の受診率はまだまだ低いように感じる。そのため、会社や個人に検診の案内を定期的に送ることや人々の疑問をなくし検診への不安を解消するために、気軽に閲覧することができる検診についてのサイトなどを作り、知識を広めることで人々が検診に行くよう促すことが必要なのではないかと思う。

私は日本人の３大死因のうち、がんが１位なのに、がん検診の受診率が低いのはおかしいと思うので、この状況を変えるためにも積極的に検診を受けるだけでなく、HPV ワクチンを接種しようと思う。また、友達や家族を通じ、がんは早期に発見すれば治ることや、ワクチン接種への誤解を解くために SNS などで発信したいと考える。

私は特に「乳がん」と「子宮頸がん」の２つに気をつけたいです。今のところ、子宮頸がんは２回ワクチンを接種し、乳がんは授業で調べた「マンマチェック」、そして両がんとも１年に１度の定期検診を受診しています。また、自分の同年代の人たちにもがんの定期検診についての情報を伝えられるようにしたいです。

定期テストの正答率や解答状況をふまえ、がん関連の出題範囲における正答率は、知識を問う問題全般で 86%、思考力・判断力・表現力を問う問題で 99%だった。このことより、授業を通じてがんについての最低限の知識、日常の予防行動や生活習慣の重要性、罹患した際の治療法の選択、がん患者への理解と共生等について、概ね理解できていることが確認された。

３．まとめ

高等学校では 2022 年度より、新学習指導要領が実施される。これまで「生活習慣病」の単元の中でがんを学習してきたが、新指導要領ではがん教育が独立した単元となり、より詳細に、より深く取り扱われることとなる。

今回の授業実践を参考に、今後はがん経験者やがん患者の声を実際に聞く機会を設けるなど、より当事者意識をもち身近にがんを考える取り組みの推進やヘルスリテラシーを実生活に落とし込み、自他共に健康な社会づくりに貢献できるような活動へとつなげていきたいと考えている。

なお、本実践はお茶の水女子大学基幹研究員自然科学系 大学院人間文化創成科学研究科 ライフサイエンス専攻遺伝カウンセリングコースの佐々木元子教授にご参観・ご助言いただいた。この場を借りて御礼申し上げたい。

４．引用・参考文献、参加研修会・学会等

(1)『Q&A シリーズ　生活習慣病 成人期』お茶の水女子大学ヒューマンライフイノベーション開発研究機構　pp.6-9，26-29，44-45，58-59　2020 年 3 月
(2)『ヘルスリテラシーの構造に基づくがん教育の研究：中学校・高等学校における授業評価』山本浩二、谷百合香、佐藤健太　文教大学教育学部研究紀要　第52巻　pp251-266　2018年
(3)『文部科学省　高等学校学習指導要領解説保健体育編』　pp218-219　2018年
(4)『World Cancer Week 2022』教育セッション「～みんなで考えよう、これからのがん教育の進め方～」一般社団法人 CancerX 主催　指定発言者・シンポジスト　佐藤健太　2022 年 1 月 30 日
(6)『Cancer X　教育セッション　Program　DAY1　1/30(日)14:30-15:30』https://cancerx.jp/summit/wcw2022/program/day01/cancerx-教育/（2022 年 1 月 31 日閲覧）
(7)『がん教育どうすれば？春から授業が始まる高校生に聞いてみた』sodane（そだね）　HTB 北海道テレビ株式会社　阿久津友紀 https://sodane.hokkaido.jp/column/202202181915001816.html（2022 年 2 月 24 日閲覧）

（8）『がん教育研修会』文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課主催 2018 年 6 月 15 日
（9）『今、学校で始まる「がん教育」』東京女子大学主催 令和元年度第 1 回 教育を語る夕べ 東京女子医科大学がんセンター基礎医学系運営会議幹事会 2019 年 7 月 5 日
（10）『令和 3 年度がん教育シンポジウム』文部科学省主催 がん教育総合支援事業 2022 年 2 月 1～7 日
（11）『がん教育における「遺伝」』joint meeting ～学校現場・遺伝診療現場から～ 日本遺伝カウンセリング学会 遺伝教育啓発委員会 指定発言者 佐藤健太 2022 年 3 月 27 日